

# 薬連ハイライト

## 第1回支援団体会議が開催される

令和6年12月18日(水)午後1時半より日本薬剤師連盟会議室において、製薬産業政治連盟はじめ18団体に参加いただき、第1回支援団体会議が開催された。はじめに丹羽副会長から「本田あきこ中央後援会役員紹介」が行われ、岩月会長の挨拶、本田あきこ参議院議員の挨拶が行われた。続いて川田副会長(日薬連盟幹事長)から「本田あきこ中央後援会の活動について」、丹羽副会長から「支援団体をお願いしたい活動について」の説明の後、質疑応答が行われ閉会した。薬業界が一致団結して我々を代表する国会議員の必要性や薬剤師参議院議員2名体制を堅持するための活動方針が確認された。



## 第3回総務会が開催される

令和6年12月25日(水)午後2時より、日本薬剤師連盟会議室において令和6年度第3回総務会がWeb併用で開催された。川田幹事長司会の下、岩月会長の挨拶に続き、神谷政幸参議院議員に来賓としてのご挨拶をいただいた。その後、次第に従い担当役員から直近の政治課題として厚生労働省の補正予算やロビー活動の報告、若手薬剤師フォーラムの開催に関する報告、今後の会務・会議予定等、会務としての会員状況や広報活動に関する報告、本田あきこ中央後援会活動の報告と協議、次期参議院議員選挙と支援者名簿の入力状況を含めた支援団体対応や薬学生対応など、多岐にわたる議題が議論された。さらに、各ブロック総務からは、後援会活動状況の共有が行われ、連盟および後援会活動全体の方向性を改めて確認する場となった。



## オレンジ日記

### 新年度に向けて ～令和7年度予算編成ほか～

参議院議員・薬剤師  
本田 顕子



暦の上での新年がスタートしましたが、この時期は新年度を間近に控えた年度末でもあり、「次の準備」を行う時期に当たります。

令和7年度予算の編成も新年度に向けた「準備」の一つで、昨年末に閣議決定された政府予算案の速やかな執行が求められます。

薬剤師関連予算は総額6億9,400万円が計上され、資質向上や専門人材の養成のほか普及啓発関連事業などを引き続き実施することに加え、対前年度比で約3億円の増額分を活用して、地域の実情に応じた薬局機能の強化につなげる予算となっています。そのため、予算が執行段階に入ることを見据えた準備を各自治体との間でよろしく願っています。

また、地域医療構想の実現のため、在宅医療の推進や薬剤師確保に向けた取組に対して引き続き地域医療介護総合確保基金を活用できますが、薬剤師確保に関しては、病院・薬局での勤務経験がある薬剤師(特に女性)の復職支援に重点が置かれています。

このほか政府予算案には、創薬エコシステムの構築、ジェネリック医薬品などの普及促進、創薬研究人材の養成や理数系教育の強化、さらには、本年4月の国立健康危機管理研究機構の創設や薬剤耐性(AMR)対策などに必要な経費が計上されていますので、通常国会での円滑な審議に向けて尽力いたします。

そして、女性局長としての党務、参議院議員として国民のいのちと暮らしを守る政策の実現のための活動を続け、「次の準備」にも万全を期す年度末にいたします。

## 政 幸 だ よ り

### 創薬への取り組み

参議院議員・薬剤師  
神谷 政幸



令和6年9月12日、第一三共品川研究開発センターを視察させていただきました。こちらのセンターは、第一三共の研究開発の中心として様々な革新的な新薬を生み出しており、代表する薬の一つにエンハーツがあります。ご承知のようにこの薬剤はヒト上皮増殖因子受容体2型に対するヒト化モノクローナル抗体とトポイソメラーゼI阻害作用を有するカンプトテシン誘導体を、リンカーを介して結合させた抗体薬物複合体です。第一製薬と三共が統合されたのは2007年、エンハーツの開発プロジェクトは2010年にスタートしました。開発候補品は2012年に完成し、2015年には臨床試験が開始され、条件付き早期承認制度の適用対象として2019年に承認されました。第一の抗がん薬と、三共の抗体医薬の技術が融合し、エンハーツの開発が加速したというお話はとても興味深く、両社の統合によるイノベーションが結実した成果だと思いました。

その後9月20日に、アステラス製薬のSakuLabを視察させていただきました。この施設は2024年4月、アステラスつくば研究センターの敷地内に設立されたオープンイノベーション拠点です。入居後すぐに使える生物系・化学系の実験施設を備え、創薬に関するアステラスの様々な専門家によるサポートのほか、利用者同士、あるいはアステラスの研究者とのネットワークの機会が活用できます。現在二つの企業と一つの大学が入居し、研究が開始されています。また研究所では「匠の腕」ロボットMaholoを視察させていただきました。iPS細胞は非常に扱いが難しく、細胞培養には熟練した研究者の手技が必要です。Maholoは熟練した研究者の作業の再現を可能にしました。日本が世界をリードするロボティクス分野の発展が期待されます。

これからも日本の創薬を、しっかりと後押しして参ります。今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。